

若 樹

杉並区立東田中学校

楽学両道

校長 坂本 聖二

2学期が始まって1カ月ほどが過ぎ、少しずつ秋の訪れを感じるようになってきました。8月の終わりから新型コロナウイルス感染者が増加したのと同時に、インフルエンザの感染者も増加していますが、本校では幸い大きな広がりを見せていません。引き続き生徒たちには感染防止を呼び掛けていきたいと思っています。

さて、本校では9月6日（水）～9月8日（金）の2泊3日で奈良・京都での修学旅行を実施しました。台風が接近しており影響が心配されましたが、大きな事故もなく無事に終了することができました。

1日目は生憎の雨でしたが、2日目と3日目は天気も回復し、生徒たちも大いに楽しむことができたと思います。3日目に台風が東海・関東地方に上陸する恐れがあり、私たちは新幹線が止まるのではないかと心配していましたが、生徒からは「新幹線が止まればもう1泊できるから止まってほしい。まだ帰りたくない。」という声が聞こえてきました。ちょっと複雑でしたが……。それだけ生徒たちは修学旅行を楽しんでいたのだと思うとうれしい気持ちにもなりました。

今回の修学旅行のスローガンは「楽学両道 ～今日とともに行こう～」でした。実行委員が一生懸命考えてくれたものです。とても良いスローガンだと思います。3日目の生徒たちの表情や、帰ってきてからの感想文の内容から、ほとんどの生徒たちが「楽学両道」を達成できたのではないかと感じました。奈良と京都で多くの寺社仏閣を見学しましたが、これらの中には、地震や台風などの災害が多いこの日本において、1000年以上経った現在でも昔の姿をそのまま残しているものが多くあります。このような古くからある日本の木造建築技術は、先人たちの努力によって現在でも宮大工の方々に受け継がれており、その基礎技術は東京スカイツリーなど最新の建築にも取り入れられているほどです。生徒たちの感想の中には「古くから残っている建物のすばらしさを実感することができました。」というものもありました。私自身何度も奈良・京都を訪れていますが、訪れるたびに改めて日本の伝統文化や伝統技術のすばらしさを実感し、先人たちの知恵と努力に畏敬の念を感じずにはいられません。

現在、私は教育の場にいます。現在の教育の形も先人たちの努力によって作り上げられたものです。過去から現在に至るまで、新しい考えのもと様々なものが取り入れられてきましたが、柱となるものは変わっていないと思います。今回の修学旅行で、本当に良いものは長く引き継がれるということを改めて実感しました。時代の流れを客観的に見ながら決して流れに飲み込まれることなく、本当に良いものは何かを見極めて、一過性のものではなく継続性のある教育を実践していきたいと思っています。

生徒会役員選挙

9月15日(金)、生徒会役員選挙立会演説会および投票が行われました。9名の立候補が、「東田中学校での生活がより良いものとなるように頑張りたい」という思いをしっかりと語りました。それぞれの推薦者の応援演説も立派でした。



修学旅行（3年生）

9月6日(水)～8日(金)「修学旅行」が実施されました。初日の奈良は雨模様でしたが、2日目、3日目はお天気に恵まれ、京都の歴史・文化に触れるいい機会となりました。そして、何より仲間との新たな思い出を刻みました。

いよいよ3年生は、自身の進路選択です。仲間と励ましあって頑張ってもらいたいと思います。



食育 「うまみ」について（1年生）

9月8日(金)、和食に使われる出汁、うまみ成分についての知識を学びました。うまみを生かした食生活と、自分の健康管理について意識が高まる機会となればと思います。



令和5年度「全国・東京都・杉並区の教育調査結果」を東田中HPに掲載します。